

# 高知くらしの護身術

271

## 電気あんか

### 低温やけどに注意

(2013年1月8日掲載原稿)

電気あんかは、比較的安価で温度を一定に保つことができるので、湯たんぽより手間がかからず安全な印象があります。

しかし、この電気あんかでやけどをしたなどの事故が報告されています。国民生活センターによると、電気あんかのけがの内容はほとんどがやけど、それも低温やけどが多くなっています。

低温やけどとは、体温より少し高い熱が数時間作用して起こるやけどです。熱さや痛みをあまり感じないので、皮膚の損傷が最も深い重症のやけどに至るケースが多くなっています。特に、身体の中でも脚は比較的知覚が鈍く血行が滞りやすいため、低温やけどを起こしやすい部分です。

電気あんかの場合、脚の同じ部位が長時間あんかに触れることにより起きますが、熟睡や泥酔で熱に気づきにくい時にも起こっています。睡眠薬の常用者、糖尿病などで知覚障害のある人は、要注意です。例えば、睡眠効果のある薬を常用して電気あんかに脚を乗せて熟睡してしまい、朝起きたところ両足がやけどで腫れていた、という事故も報告されています。

また、幼い子どもの場合も要注意です。熱いと感じても自分で温度調整ができない、身体から離せないなどで低温やけどを起こしてしまうことがあります。

この低温やけどを予防するためには、同じ部分に長時間熱をあて続けないことです。厚手のタオルなどを巻いて身体から離し、また温度設定できる場合にはなるべく低い温度で使用しましょう。

もし、やけどをしたと思われるときは、皮膚の表面が少し赤くなった程度でも皮膚の深くまでやけどが進行している場合もあるので、すぐに病院に行きましょう。